

つも注視していました。そして、いつかは教壇に立ちたいと願っていました。平成九年に実現しました。すでに、西高を卒業してから、十八年も経過していたのですが、生徒時代に体験した学校行事の大半が、残されていたことをうれしく感じたことを覚えていません。何よりも、平成元年から導入された、複合選抜制度による高校入試が開始されてからも、進路実績が予想以上に保たれていたことは驚きであり、喜びでもありました。一宮高校との学校群時代から考えれば、西高の地位が低下することが当然と感じていただけに、不思議でした。この意味は、母校で仕事をするようになって、徐々に理解できるようになりました。

西高最初の授業で、発問に対する返答が不十分であることに對して、厳しく指導した生徒が、どこに問題点や間違った点があるのか、その日のうちに質問に来るという意識の高さに驚かされました。また、毎日のように数学の質問に来る生徒との出会いも印象的でした。志望校合格は無理と感じられるけれど、愚直に勉強を続ける姿勢に心打たれ、こちらも真剣に対応させてもらいました。この生徒が志望校に合格したことは、大きな喜びであり、驚きでした。勝手に生徒の限度を決めていた、自分の見識のなさを恥じることとなりました。最初の二年間で、他にも似たようなことを経験し、以後、生徒の可能性を信じ、進路指導をする西高での基準が理解できたのではないかと思っています。この二年間は副担任として三年生を担当しました。進路指導部に所属し、数学の教科指導と進路指導を中心に活動しました。進路検討会は各担任の思いに基づき、個々の生徒の性格、学習状況等を踏まえた上で、偏差値には現れない学力に、重点を置いた意見交換がなされました。クラス担任・教科担任の感性が尊重され、やりがいを感じられる会議でした。

西高では、生徒に学業・部活動・学校行事に打ち込むことを要求しています。そうである以上、教員もそれぞれの意義を理解して、バランスを保つことが必要であると考えます。私自身も、部活動の重要性を理解し、バレーボール部の顧問として活動しました。能力の高い生徒が多く、男女合せて、五つのチーム（異なる学年）で尾張支部大会優勝を経験させてもらえたことは幸せなことでした。中学校時代の経験者がリーダーシップを発揮して、初心者を含めてチームとして成長していく過程を共にすることができたことは、大きな喜びでした。残念ながら、全員が県大会出場を果たすことはできませんでしたが、あと一つ勝てば県大会出場という試合は、ほぼ毎年経験できました。「勝つという目的のために、ルールを逸脱することは、西高生であることを否定する恥ずべき行為である」との信念に基づいて指導を続けたことは、生徒にも伝わっていると自負しています。

西高は進学実績を残すために、学習以外の何かを犠牲にしてきた訳ではありません。部活動や行事を大切にバランスを保つことで、生徒・教員が誇りを持ちながら、毎日生活しています。帰属意識が強く、西高を大切にしていることが強く感じられます。制度の変わり目の度毎に、当時の先生方や生徒が一体となって知恵を出し合うことで、苦難を乗り越えてきたことが理解できるようにになりました。西高がよい学校であり続けられるのも、卒業生を含めた、西高に携わる多くの方々が、誇りや意地を持ち、努力を続けていたのだとお陰です。

自由で明るく、「規律と責任」のスクールモットーが西高の文化をよく表しています。細かい規則で縛らなくても、各自の責任で行動することができる集団、それが西高です。いつの時代になっても、「西高に入学したい」「子や孫に入学して欲しい」と思うことができる西高であり続けるためにも、「西高の文化」が今後永く継承されることを祈念してやみません。

西高では、心に残る生徒たちに出会った皆様、そして交わることはなくとも、脈々と流れる西高の伝統を築いてきた卒業生の皆様に感謝するとともに、この先も変わらず在校生たちを支えてくださることを信じ、同窓会の発展を心より祈念いたします。

西高とともに過ごした日々

船橋 淳子

このたびの人事異動で、12年間お世話になりました一宮西高校を離れることとなりました。12年の間に娘は小学生から大学院生になり、大きな歳月であったことを痛感しています。ここまでの教員人生の半分近くを過ごした西高を離れてみて、初めて自分のスタンダードが西高にあったことを知りました。新勤務校では、大きな枠組みから些細なことまで何かと戸惑いながらも、ここにもまた伸びたいと願う高校生がいることを感じていきます。

部活動では、一貫して茶華道部の顧問をしてきました。昼間定時の流れを感じさせる和礼室での活動は、穏やかな（時に賑やかな）雰囲気の中、日本文化にふれあう部員たちとの心安まる時間でした。9月初めの西高祭でのお茶会で、懸案だった『灼熱の和礼室脱出』を巡っては、山積する難題を一つ一つ解決して、大会議室でのお茶会を成功させてくれた部員の活躍が思い出されます。

最後に、この3月に卒業した『新』同窓生を始め、西高在職中



体育祭

同窓会費納入及び協力金のお礼

昨年度も例年通り同窓会費（年間二千円）の納入をお願いしましたところ、二百三十三名の方から会費をいただくことが出来ました。同時にお願いました協力金とあわせて、六十八万円あまりをいただくことが出来ました。ご協力ありがとうございました。今年度も、年会費二千円とは別に、一口千円を協力金としてお願いしたいと存じます。同封の振込用紙をご利用の上、郵便局からお振込ください。よろしくお願いたします。